

Novell iManager

2.6

www.novell.com

インストールガイド

2005年10月12日



Novell®

法令通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、取引対象製品の輸出、再輸出または輸入に関し、国内外の輸出管理規定に従うこと、および必要な許可、または分類に従うものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、www.novell.com/info/exports/ を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2005 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

本書に記載された製品で使用されている技術に関連する知的所有権は、弊社に帰属します。これらの知的所有権は、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> に記載されている 1 つ以上の米国特許、および 1 つ以上の米国およびその他の国における追加特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.

www.novell.com

Novell iManager 2.6 インストールガイド
2005 年 10 月 12 日

オンラインドキュメント：この製品およびその他の Novell 製品に関するオンラインマニュアルにアクセスしたり、アップデートを手するには、<http://www.novell.com/documentation> を参照してください。

Novell の商標

BorderManager は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

iChain は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NMAS は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Certificate Server は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Client は、米国 Novell, Inc. の米国における商標です。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Technical Services は、米国 Novell, Inc. の米国における登録商標です。

Nsure は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

SUSE は、Novell の事業部である SUSE LINUX AG の登録商標です。

サードパーティの商標

サードパーティ各社とその製品の商標は、所有者であるそれぞれの会社に所属します。

目次

目次	5
このガイドについて	7
1 iManager のインストール	9
概要	9
バージョン 2.6 の新機能	9
デスクリプタファイル	9
iManager サーバでサポートされるプラットフォーム	11
iManager 2.6 のサーバベースバージョンとクライアントベースバージョン	12
インストール条件	12
サーバベースの iManager	13
クライアントベースの Mobile iManager	13
自己署名証明書	14
新しいバージョンの iManager のインストール	14
HP-UX 上での iManager サーバ	15
Linux 上での iManager サーバ	17
Linux クライアントでの Mobile iManager	19
NetWare 6.5 上での iManager サーバ	20
Solaris 上での iManager サーバ	23
Windows 上での iManager サーバ	24
Windows クライアントでの Mobile iManager	26
iManager のサイレントインストール	27
標準的なサイレントインストール	27
カスタマイズされたサイレントインストール	27
2 iManage へのアクセス	29
サポートされている Web ブラウザの使用	29
iManage へのアクセス (サーバベース)	29
Linux クライアントでの Mobile iManager の起動	30
Linux Desktop での Mobile iManager Desktop Launcher	30
Windows クライアントでの Mobile iManager の起動	30
3 役割ベースサービスの更新	31
役割ベースサービスの移行	31
iManager 2.x からの更新	32
4 Novell プラグインモジュールのインストール、使用、アンインストール	33
Novell プラグインモジュールのダウンロードとインストール	34
Novell プラグインモジュールのインストール	34
RBS が設定されている場合	35
NPM のアンインストール	35

5	iManager 2.6 のアンインストール	37
	HP-UX	37
	Linux	37
	NetWare 6.5	38
	Solaris	38
	Windows	38
	Mobile iManager	38

このガイドについて

このガイドでは、Novell® iManager 2.6 をインストールする方法について説明します。このガイドはネットワーク管理者を対象としており、次のセクションから構成されています。

- ◆ 9 ページの第 1 章「iManager のインストール」
- ◆ 31 ページの第 3 章「役割ベースサービスの更新」
- ◆ 29 ページの第 2 章「iManage へのアクセス」
- ◆ 33 ページの第 4 章「Novell プラグインモジュールのインストール、使用、アンインストール」

その他のマニュアル

- ◆ *iManager 2.6 管理ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/imanager26>)
- ◆ Apache HTTP サーバ (<http://httpd.apache.org>)
- ◆ Tomcat サブレットコンテナ (<http://jakarta.apache.org/tomcat>)
- ◆ Java* Web サイト (<http://java.sun.com>)
- ◆ Microsoft* Windows* Web サービス (<http://www.microsoft.com/technet/treeview/default.asp?url=/technet/prodtechnol/iis/default.asp>)
- ◆ Novell eDirectory™ 製品ホームページ (<http://www.novell.com/products/edirectory>)
- ◆ Novell eDirectory 製品マニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edirectory.html>)
- ◆ Novell eDirectory Cool Solutions コミュニティ (<http://www.novell.com/cool-solutions/nds>)
- ◆ Novell NetWare® マニュアルホームページ (<http://www.novell.com/documentation/netware.html>)
- ◆ Novell Technical ServicesSM (<http://support.novell.com>)

マニュアルの更新

最新のマニュアルについては、[iManager 2.6 \(http://www.novell.com/documentation/imanager26/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/imanager26/index.html) を参照してください。

マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、不等号 (>) を使用して、操作手順の動作、およびクロスリファレンスパス内の項目を区切ります。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) はサードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (¥) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux* や UNIX* などのようにスラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

1

iManager のインストール

Novell® iManager では、ブラウザベースのツールからネットワーク全体を監視することができるので、刻々と変化するネットワークの需要を事前に評価して対応することができます。

iManager を使用すると、Novell eDirectory™ や、Novell Open Enterprise Server、Nsure Identity Manager、Identity and Access Management Audit (以前の Nsure® Audit)、Border Manager®、Virtual Directory Services などの多くの Novell 製品やサードパーティ製品を管理できます。この中央集中型の管理システムを使用すると、管理における無駄や不必要な費用を削減できるため、時間とコストを節約できます。

概要

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 9 ページの「バージョン 2.6 の新機能」
- ◆ 12 ページの「iManager 2.6 のサーバベースバージョンとクライアントベースバージョン」
- ◆ 12 ページの「インストール条件」
- ◆ 14 ページの「自己署名証明書」
- ◆ 14 ページの「新しいバージョンの iManager のインストール」

バージョン 2.6 の新機能

Novell iManager 2.6 では、プラグインモジュールのダウンロードが強化され、Novell Virtual Directory Services と統合されています。

iManager 2.6 のインストール処理中に新しい画面が表示され、使用可能なプラグインのデスクリプタファイルを参照する URL を表示します。(この URL は変更できますが、URL の参照先となる Web サーバファイル上に XML デスクリプタファイルが必要です。)

デスクリプタファイル

デスクリプタファイルは、使用可能なプラグインに関する情報を記載した XML ファイルです。このデスクリプタファイルで使用する XML は、次のとおりです。

```
<modules>
<module>

<!-- Mandatory. The "selected" attribute may be omitted (default is false)
-->
```

```

<moduleID selected="true"></moduleID>

<!-- Mandatory. The name of the npm file as it will appear on the file system
(ex: base.npm). -->

<filename></filename>

<!-- Mandatory. The version found in the plug-in manifest file. -->

<version></version>

<!-- Mandatory. The url to the npm file. The "type" attribute is only used
when a plug-in is inside a zip, tar or tar.gz file -->

<url type="zip|tar|targz"></url>

<!-- Optional. The minimum version of iManager that this plug-in will work
on -->

<min-required-version></min-required-version>

<!-- Optional. The maximum version of iManager that this plug-in will work
on -->

<max-required-version></max-required-version>

<!-- Mandatory. The description for this module. The "lang" attribute can be
used to localize the descriptions (if omitted the default is "en"). -->

<description lang="en"></description>

<!-- Optional. The operating system(s) this module will run on. If omitted
the default is all. Valid values are: netware, linux, windows, solaris, hpux,
aix. -->

<os></os>

</module>

</modules>

```

社内でのプラグインの提供に内部サーバを使用する場合は、Web サーバにデスクリプ
タファイルを保存して、この情報の取得が必要なすべての iManager サーバから URL を
使用してこの情報にアクセスできるようにします。インストール中に、モジュールの
ダウンロードページで URL を変更できます。

iManager のインストール後、config.xml ファイルに次の設定を追加して、カスタム Web
サーバからモジュールの情報を取得できるようにします。

```

<setting>
<name><![CDATA[ModuleDownloadDescriptorURL]]></name>

<!-- This is the URL to the custom module descriptor file (ex: http://
127.0.0.1/iman_mod_desc.xml) -->

<value><![CDATA[カスタム URL をここに記入]]></value>

</setting>

```

iManager サーバでサポートされるプラットフォーム

オペレーティングシステム

- ◆ NetWare® 6.5 SP3
- ◆ Open Enterprise Server (NetWare)
- ◆ Windows*
 - ◆ Windows 2000 Advanced Server SP4
 - ◆ Windows 2000 Professional SP4
 - ◆ Windows Server 2003
- ◆ Solaris*
 - ◆ Solaris 9
 - ◆ Solaris 10
- ◆ Linux
 - ◆ Red Hat* Advanced Server 3.0 および 4.0
 - ◆ SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 8 および 9
 - ◆ Open Enterprise Server (SLES 9) SP1
- ◆ HP-UX* 11i

アプリケーションサーバ

- ◆ Tomcat
 - ◆ 4.1.29 (HP-UX のみ)
 - ◆ 4.1.30
- 注：Tomcat 5.0 および Java 1.5.x はサポート外

Web サーバ

- ◆ Apache 2.0.49 for OES Linux
- ◆ Apache 2.0.52
- ◆ インターネットインフォメーションサービス (IIS) 5 および 6

ブラウザ

- ◆ IE 6 SP1
- ◆ Mozilla* 1.7.6
- ◆ Mozilla Firefox* 1.0.6

ディレクトリサービス

- ◆ eDirectory 8.7.3
- ◆ eDirectory 8.8

Mobile iManager サーバでサポートされるプラットフォーム

Linux

- ◆ SUSE Linux Professional 9.1、9.2、および 9.3
- ◆ Red Hat Enterprise Linux Work Station 3 および 4
- ◆ Novell Linux Desktop (NLD) 9 SP1 および SP2

Windows

- ◆ Windows XP Professional SP2
- ◆ Windows 2000 Professional SP4

iManager 2.6 のサーバベースバージョンとクライアントベースバージョン

iManager 2.6 のサーバベースバージョンは、iManager と呼ばれ、eDirectory ツリーにアクセスできるサーバ上にインストールされます。クライアントベースバージョンは Mobile iManager と呼ばれ、サーバではなくクライアントワークステーション上にインストールされます。どちらのバージョンがご使用の環境に最も適しているのか、eDirectory 管理ポリシーでは両方のバージョンをインストールするのが有効であるのかどうかを判断するには、次のガイドラインに従ってください。

- ◆ 一人の管理者が、常に同じクライアントワークステーションから eDirectory を管理している場合、Mobile iManager を有効に活用できます。Mobile iManager は、ほとんどセットアップの必要がなく、起動したりシャットダウンしたりすると、使用するリソースが開始したり停止したりします。Mobile iManager をラップトップにインストールすれば、管理者がどこにいても常に使用できます。

iManager プラグインでは、iManager インスタンス間の同期化を自動的に行いません。カスタマイズされたプラグインを複数の管理者が使用している場合は、Mobile iManager とこれらのプラグインが各管理者のクライアントワークステーションにインストールされている必要があります。

- ◆ 複数のクライアントワークステーションから eDirectory を管理しており、また、管理者が複数いる場合は、すべての接続されたワークステーションから使用できるように、iManager をサーバにインストールすることができます。カスタマイズしたプラグインは一度だけインストールすれば済みます。
- ◆ 複数の管理者がいて、それらの管理者がモバイルユーザである場合には、両方の方法で iManager にアクセスできることに利便性を感じることでしょう。

インストール条件

iManager をインストールするには、ルート / 管理者アクセスが必要になります。

サーバベースの iManager

次のインストール条件は、すべてのサーバプラットフォームに該当します。プラットフォーム別の追加インストール条件については、14 ページの「[新しいバージョンの iManager のインストール](#)」で説明します。

- **サポートされるブラウザ**：iManager を実行するには、ワークステーションに Microsoft Internet Explorer 6.0 SP1、Mozilla 1.7.6、または Mozilla* Firefox* 1.0.6 がインストールされている必要があります。
重要：その他の Web ブラウザを使用しても iManager にアクセスできますが、すべての機能を保証またはサポートするものではありません。
- **eDirectory 管理**：iManager 2.6 は、Novell eDirectory 8.6.2 以降を実行しているすべてのサーバを管理できます。
- **管理者と同等の権利**：eDirectory ツリーで役割ベースサービス (RBS) コレクションを作成する際、あるいは RBS 設定ウィザードを実行する際は、管理者と同等の権利が必要になります。
- **サーバのメモリ**：iManager をインストールして実行するサーバには、512 MB 以上の RAM が必要です。1024 MB を推奨します。特定のハードウェア要件については、14 ページの「[新しいバージョンの iManager のインストール](#)」に記載されているサーバプラットフォーム別の一覧をご覧ください。
- **ポートの設定**：ポートの競合を避けるために、iManager をインストールするサーバで使用されているポートと、iManager で使用するポートが競合しないことを確認してください。iManager とともにインストールされるバージョンの Apache および Tomcat は、ポート 80、443、8009、8080、および 8005 を使用します。これらのポートを eDirectory など別のサービスで使用している場合は、問題が発生する可能性があります。プラットフォーム別のインストール方法については、14 ページの「[新しいバージョンの iManager のインストール](#)」をご覧ください。

クライアントベースの Mobile iManager

Mobile iManager は、Novell Linux Desktop、SUSE® Linux Professional 9.1、9.3、Red Hat* Enterprise Linux WS、Microsoft Windows XP Professional、および Windows 2000 Professional（最新のサービスパックがインストールされた）クライアントワークステーション用のスタンドアロンアプリケーションです。

Mobile iManager は、サーバベースの iManager と同じ機能を提供します。Mobile iManager の特徴は次のとおりです。

- ◆ 自己完結型であり、各種 Linux または Windows クライアントワークステーションで実行されます。
- ◆ サーバベースの iManager との依存関係はなく、ネットワークにインストールされているすべてのバージョンの iManager と共存できます。

次のインストール条件は、すべてのクライアントに該当します。プラットフォーム別の追加インストール条件については、11 ページの「[iManager のインストール](#)」で説明します。

- **管理者と同等の権利**：eDirectory ツリー内で役割ベースサービス (RBS) コレクションを作成したり、iManager RBS 設定ウィザードを実行したりするためには、管理者と同等の権利が必要になります。

自己署名証明書

iManager 2.6 には一時的な自己署名証明書が含まれています。これは、NetWare® 以外のすべてのプラットフォームに iManager をインストールする場合に使用します。自己署名証明書の有効期限は 1 年間です。

これは長期的な使用を目的としたものではありません。システムの稼働状態を保ち、インストール直後から iManager を安全に使用できるようにするための一時的な解決策です。早急に認証局から有効な証明書を取得して、一時的な証明書と置き換える必要があります。OpenSSL では、テストを目的とする場合を除き、自己署名証明書の使用を推奨していません。

新しいバージョンの iManager のインストール

iManager 2.6 は、次のプラットフォームにインストールできます。iManager をインストールする前に、使用しているプラットフォーム用の最新のサービスパックを適用し、10 ページの「インストール条件」に記載されているインストール条件を満たしておく必要があります。

- ◆ 15 ページの「HP-UX 上での iManager サーバ」
- ◆ 17 ページの「Linux 上での iManager サーバ」
- ◆ 19 ページの「Linux クライアントでの Mobile iManager」
- ◆ 20 ページの「NetWare 6.5 上での iManager サーバ」
- ◆ 23 ページの「Solaris 上での iManager サーバ」
- ◆ 24 ページの「Windows 上での iManager サーバ」
- ◆ 26 ページの「Windows クライアントでの Mobile iManager」

iManager 2.0.x および 2.5 からのアップグレードは、インストールプログラムでサポートされます。iManager 2.0.x または 2.5 を実行しているサーバ上で iManager 2.6 インストールプログラムを実行すると、既存のディレクトリ構造が TOMCAT_HOME ディレクトリにバックアップされます。これにより、以前に作成したカスタムコンテンツが確実に保持されます。

互換性のあるバージョンが検出されなかった場合、iManager 2.6 インストールプログラムでは、次の項目がインストールおよび設定されます。

- ◆ Apache 2.0.52 (Apache と IIS が検出されなかった場合にインストールされます)
- ◆ Tomcat 4.1.30
- ◆ Sun JVM 1.4.2_06
- ◆ Novell International Cryptographic Infrastructure (NICI) 2.6.7
- ◆ NMASTM Client 3.0

HP-UX 上での iManager サーバ

インストールの準備をするために、インストール条件のチェックリストを確認します。

インストール条件

HP*-UX* に iManager をインストールする場合は、12 ページの「インストール条件」に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件も適用されます。

- 最新のパッチがインストールされた HP-UX 11i オペレーティングシステム
OS がパッチ PHSS_26560 を使って更新されていることを確認します。このパッチは、[HP IT Resource Center Web サイト \(http://www.itrc.hp.com\)](http://www.itrc.hp.com) からダウンロードできます。
- 以前のバージョンの iManager
以前のバージョンの iManager がインストールされている場合、これをアンインストールする必要はありません。iManager 2.6 では上書きインストールが可能です。アンインストール時は、カスタムコンテンツは削除されません。
- PA-RISC 2.0 プロセッサ
- 400 MB のディスク領域
- gettext-0.12 がインストールされていること
gettext-0.12 は、[HP-UX Porting and Archive Centre の Web サイト \(http://hpux.connect.org.uk/hppd/hpux/Gnu/gettext-0.12\)](http://hpux.connect.org.uk/hppd/hpux/Gnu/gettext-0.12) からダウンロードできます。
- libiconv-1.9 がインストールされていること
libiconv-1.9 は、[HP-UX Porting and Archive Centre の Web サイト \(http://hpux.connect.org.uk/hppd/hpux/Development/Libraries/libiconv-1.9\)](http://hpux.connect.org.uk/hppd/hpux/Development/Libraries/libiconv-1.9) からダウンロードできます。
- Java 2 SDK for HP-UX バージョン 1.4.1.x (バージョン 1.4.2.x を推奨)

手順

- 1** [HP Software Depot の Web サイト \(http://www.software.hp.com/cgi-bin/swdepot_parser.cgi/cgi/displayProductInfo.pl?productNumber=HPUXWSSUITE\)](http://www.software.hp.com/cgi-bin/swdepot_parser.cgi/cgi/displayProductInfo.pl?productNumber=HPUXWSSUITE) から HP-UX Web Server Suite バージョン 2.11 をインストールします。
このスイートには、HP-UX でサポートされているオフィシャルバージョンの Apache と Tomcat が含まれています。
すべてのコンポーネントを含むダウンロードを選択します。
HP-UX Apache-based Web Server
HP-UX Tomcat-based Servlet Engine
HP-UX Webmin-based Admin
- 2** [HP Java for HP-UX の Web サイト \(http://www.hp.com/go/java\)](http://www.hp.com/go/java) より、Java 1.4.2_04 から 1.4.2_08 いずれかのバージョンをインストールして、新しい Java を参照するようにパスを更新します。

- 3 /opt/hpws/tomcat/bin に格納されている Tomcat setenv.sh ファイルに、JAVA_HOME 環境変数を追加します。

例：

```
JAVA_HOME=/opt/java
```

- 4 Apache の新しい証明書をインストールし、次のディレクトリにコピーします。

```
/opt/hpws/apache/conf/ssl.crt/ and /opt/hpws/apache/conf/ssl.key/
```

HP-UX 上で Apache とともにインストールされる証明書には、サーバについての正しい情報が含まれていません。自己署名証明書または信頼できる機関から購入した証明書をインストールできます。

Webmin 管理ツールを使用すると、Apache のキー、証明書、および証明書要求を生成できます。Webmin は、HP-UX Web Server Suite とともにインストールされます。詳細については、http://ip_address からアクセスできる HP-UX Web Server Suite のマニュアルを参照してください。この URL にはインストール済みの Apache からアクセスできます。Webmin を使用してキー、証明書、および証明書要求を生成する方法については、http://ip_address/hp_docs/faq/#security11 を参照してください。

重要：新しい証明書を作成するときは、共通名に対して正しい DNS 名または IP アドレスを使用してください。

- 5 Novell ダウンロードサイト (<http://download.novell.com>) で、iManager 製品を検索し、iManager 2.6 を選択します。次に、iMan_26_hp.tgz をサーバ上のディレクトリにダウンロードします。

- 6 iMan_26_hp.tgz ファイルを展開します。

例：

```
gzip -dc iMan_26_hp.tgz | tar xvf -
```

- 7 端末セッションを終了するかログアウトして、PATH 設定をロードします。

- 8 次のコマンドのいずれか 1 つを使って、インストールファイルを展開した場所から iManager をインストールします。

標準インストールの場合は、次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallHPUX.bin
```

または

```
sh iManagerInstallHPUX.bin
```

テキストのみのインストールの場合は、次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallHPUX.bin -i console
```

重要：iManager インストールプログラムでは、HP-UX Web Server Suite が検出されます。iManager のインストールパスは変更しないでください。

インストール時には、iManager ファイルのインストール、プラグインのダウンロード、および設定の変更が行われます。インストールには、数分かかる場合があります。

インストールの終了後は、Web サーバが初期化されるまで数秒待つてから iManager にアクセスする必要があります。iManager にアクセスするには、[29 ページの第 2 章「iManage へのアクセス」](#)を参照してください。

以前のバージョンの iManager がインストールされており、RBS またはカスタムコンテンツが作成されている場合は、モジュールを更新する必要があります。[31 ページの第 3 章「役割ベースサービスの更新」](#)を参照してください。

Linux 上での iManager サーバ

インストールの準備をするために、インストール条件のチェックリストを確認します。

インストール条件

Linux に iManager をインストールする場合は、12 ページの「インストール条件」に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件も適用されます。

- SUSE LINUX Enterprise Server 8.0 または 9.0、Red Hat Advanced Server 3.0 または 4.0、または Open Enterprise Server SP1 がインストールされていること
- 次のパッケージがインストールされていること
 - ◆ compat (SUSE)
 - ◆ compat-libstdc++-33 (Red Hat AS 4.0)
 - ◆ compat-libstdc++7.3 (Red Hat AS 3.0)

これらのパッケージのいずれかが不足している場合は、iManager をインストールする前に、Linux 配布ベンダからこれらのパッケージを入手してインストールしておく必要があります。これらはインストール CD に格納する必要があります。

- 以前のバージョンの iManager

iManager 1.5.x がサーバにインストールされている場合は、iManager 2.6 をインストールする前に、このバージョンをアンインストールする必要があります。

iManager 2.x がインストールされている場合は、これをアンインストールする必要はありません。iManager 2.6 では上書きインストールが可能です。アンインストール時は、カスタムコンテンツは削除されません。

- Pentium* III 600 MHz 以上のプロセッサ
- ローカルインストール用として 200 MB の空きディスク領域
- ポートの設定

ポートは競合する可能性があります。Tomcat と JVM* は、iManager インストールプログラムを使用してインストールされます。iManager インストールプログラムは、デフォルトポートの使用状況を確認します。これらのポートが使用されていると、Tomcat の実行用に別のポートを入力するよう要求するプロンプトがインストール中に表示されます。デフォルトでは、Tomcat はポート 8080、8443、および 9009 を使用します。

重要： Linux 上では、iManager とともにインストールされるバージョンの Tomcat を使用しないと iManager はサポートされません。Apache はインストールされていません。

手順

- 1** Novell ダウンロードサイト (<http://download.novell.com>) で、iManager 製品を検索し、iManager 2.6 を選択します。次に、iMan_26_linux.tgz をサーバ上のディレクトリにダウンロードします。
- 2** iManager フォルダに展開するには、次のコマンドを使用します。

```
tar -zxvf iMan_26_linux.tgz
```
- 3** シェルを開き、`extracted_directory/iManager/installs/linux` ディレクトリに移動します。このパスは、iManager のファイルをコピーまたは解凍したディレクトリに対する相対パスです。

- 4** ルートまたはルートと同等の権利でログインしているときに、次のコマンドのいずれか1つを入力します。

コンソールモードによるインストールの場合は、次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallLinux.bin
```

GUI モードによるインストールの場合は、次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallLinux.bin -i gui
```

正常にインストールされると、インストール中に提示された質問の答えに基づいた値によって、環境設定ファイル (/var/log/installer.properties) が生成されます。このファイルを変更してサイレントインストール用に使用することができます。[27 ページの「iManager のサイレントインストール」](#)を参照してください。

- 5** iManager のスプラッシュ画面が表示されたら言語を選択し、[OK] をクリックします。
- 6** 使用許諾契約を受諾して [OK] をクリックし、手順 7 または手順 8 に進みます。
- 7** プラグインをダウンロードする場合は [はい] をクリックして、プラグインをダウンロードするネットワーク URL を選択します。

デフォルトは download.novell.com です。別の URL も入力できますが、URL の参照先となる Web サーバ上に [XML デスクリプタファイル](#)が必要です。

重要： プラグインをダウンロードする URL を別を選択した場合は、URL の参照先と、使用するプラグインが適正なものであるかどうかを自己責任の上ご確認ください。

インストールするプラグインを選択します。

- ◆ コンソールでは、ダウンロードするプラグインに従って、カンマで区切った数値のリストを入力します。
 - ◆ GUI モードによるインストールの場合は、チェックボックスを選択します。デフォルトの項目がすでに選択されています。
- 8** プラグインをローカルディレクトリからインストールする場合は [はい] をクリックして、プラグインファイル (.npm) を格納しているディレクトリのパスを入力します。
- デフォルトは、`/extracted location/iManager/installs/plugin-ins` です。有効なマウントポイントを入力してください。
- 9** [はい] または [いいえ] をクリックして、既存の Apache アプリケーションと iManager を連携するかどうかを設定します。

Apache がインストールされている設定の場合、Novell iManager 2.6 の Linux へのインストール時に、Apache HTTP サーバがインストールされないことに注意してください。ただし、iManager の以前のバージョンからアップグレードする場合は、インストールに含まれる HTTP サーバを使用できます。

- ◆ [はい] を選択すると、Apache がサーバにインストールされている場合、iManager 2.6 は事前にインストールされた Apache と連携するように設定されます。Apache HTTP サーバの `httpd.conf` ファイルが格納されたディレクトリパスを入力します。このサーバでは、iManager が SSL 通信を設定する前に SSL を設定しておく必要があります。Apache サーバで SSL 通信を設定していない場合は、インストールを続行して Apache Tomcat のみを使用して iManager を実行するように設定するか、またはインストールを停止します。
- ◆ [いいえ] を選択した場合、iManager は Apache Tomcat のみを使用して実行するように設定されます。

10 Tomcat を実行するポートを入力します。

デフォルトは HTTP ポートに対して 8080、HTTPS ポートに対して 8443 です。

Apache HTTP サーバを使用しないように設定している場合、Tomcat のポートから iManager 2.6 を実行する必要があります。たとえば、`https://server_IP:8443/nps/iManager.html` と指定します。

11 さまざまな管理タスクを実行する、許可されたユーザの名前とコンテキストを入力します。

許可されたユーザ以外には、これらのタスクは表示されません。既定のオプションの [なし] を使用している場合、すべてのユーザがこれらのタスクにアクセスできます。iManager 2.5 からのアップグレードでは、このバージョンで使用されていた許可されたユーザのリストが使用されます。

インストール後に、許可されたユーザを iManager から追加するには、[設定] > [iManager サーバ] > [iManager の設定] > [セキュリティ] に移動します。詳細については、『iManager 2.6 管理ガイド』の「許可されたユーザ」を参照してください。

12 [インストール前の概要] ページを確認して、[インストール] をクリックします。

- ◆ [コピーするプラグイン] は、インストール中に指定したローカルディレクトリからコピーするプラグインです。
- ◆ [既存] は、iManager の以前のバージョンによりすでにインストールされていて、Novell ダウンロードサイトに使用可能な新しいバージョンが存在しないプラグインです。
- ◆ [New Download (新しいダウンロード)] (GUI)、[ダウンロードするプラグイン] (コンソール) は、iManager の以前のバージョンでインストールされておらず、ダウンロードサイトに使用可能な新しいバージョンが存在するプラグインです。

インストール時には、iManager ファイルのインストール、プラグインのダウンロード、および設定の変更が行われます。インストールには、数分かかる場合があります。

インストールの終了後、[はじめに] ページが表示されるまで数秒待ちます。iManager にアクセスするには、[29 ページの第 2 章「iManage へのアクセス」](#)を参照してください。

以前のバージョンの iManager がインストールされており、RBS またはカスタムコンテンツが作成されている場合は、モジュールを更新する必要があります。[31 ページの第 3 章「役割ベースサービスの更新」](#)を参照してください。

Linux クライアントでの Mobile iManager

インストールの準備をするために、インストール条件のチェックリストを確認します。

インストール条件

- GTK2 がインストールされていること
- GLIBC 2.3 がインストールされていること
- SUSE Linux 9.0 または 9.1、Novell Linux Desktop 9.0、SUSE Linux Enterprise Server 9.0、または Red Hat AS、Red Hat Linux Enterprise WS (入手できる最新のパッケージで更新されていること)

1 Novell ダウンロードサイト (<http://download.novell.com>) で、iManager 製品を検索し、iManager 2.6 を選択します。次に、iMan_26_Mobile_iManager_linux.tar.bz2 をサーバ上のディレクトリにダウンロードします。

2 次のコマンドを使って、ファイルを展開します。

```
tar -xjvf iMan_26_Mobile_iManager_linux.tar.bz2
```

3 展開した iMan_26_Mobile_iManager_linux.tar ディレクトリの Nici ディレクトリに格納されている、Novell International Cryptography Infrastructure (Nici) ソフトウェアをインストールします。

Nici をインストールまたはアップグレードするには、ルートとしてログインする必要があります。Nici がインストールされていないデスクトップでこのコマンドを使用すると、Nici がインストールされます。Nici がすでにインストールされているデスクトップでこのコマンドを使用すると、Nici がアップグレードされます。

Nici ディレクトリから、次のコマンドを実行します。

```
rpm -Uvh nici.i386.rpm
```

4 imanager/bin ディレクトリに移動します。

```
cd ./imanager/bin
```

5 起動スクリプトを実行します。

```
./iManager.sh
```

6 インストールするプラグインを選択します。

7 iManager ログイン画面が表示されたら、ユーザ名、パスワード、およびツリーを入力します。

iManager にアクセスするには、[29 ページの第 2 章「iManage へのアクセス」](#)を参照してください。

以前のバージョンの iManager がインストールされており、RBS またはカスタムコンテンツが作成されている場合は、モジュールを更新する必要があります。[31 ページの第 3 章「役割ベースサービスの更新」](#)を参照してください。

NetWare 6.5 上での iManager サーバ

インストールの準備をするために、インストール条件のチェックリストを確認します。

インストール条件

NetWare 6.5 に iManager をインストールする場合は、[12 ページの「インストール条件」](#)に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件も適用されます。

- NetWare 6.5 SP3 または SP4、Open Enterprise Server (OES)、OES SP1
- Pentium III 600 MHz 以上のプロセッサ
- ローカルインストール用として 200 MB の空きディスク領域
- 512 MB の RAM (1 GB を推奨)

□ 以前のバージョンの iManager

以前のバージョンの iManager がインストールされている場合、これをアンインストールする必要はありません。iManager 2.6 では上書きインストールが可能です。アンインストール時にカスタムコンテンツは削除されません。

□ PA-RISC 2.0 プロセッサ

注： iManager をインストールするサーバには、次の Novell ソフトウェア製品をインストールしないでください。

- ◆ 1.3 以前の Novell Virtual Office
- ◆ 4.1.1 以前の exteNd Director

手順

- 1 **Novell ダウンロードサイト (<http://download.novell.com>)** で、iManager 製品を検索し、iManager 2.6 を選択します。次に、sys ボリュームに iMan_26_NW65_Standalone.zip をダウンロードして展開します。
- 2 NetWare 6.5 の GUI 画面で、[Novell] ボタンをクリックした後、[インストール] > [追加] の順にクリックします。
- 3 展開した場所に移動し、product.ni ファイルを選択して [OK] をクリックします。
- 4 使用許諾契約を受諾して [OK] をクリックし、手順 5 または手順 6 に進みます。
- 5 プラグインをダウンロードするには、プラグインをダウンロードするネットワーク URL を選択します。

デフォルトは download.novell.com です。別の URL も入力できますが、URL の参照先となる Web サーバ上に **XML デスクリプタファイル** が必要です。詳細については、[デスクリプタファイル \(9 ページ\)](#) を参照してください。

警告： プラグインをダウンロードする URL を別に選択した場合は、URL の参照先と、使用するプラグインが適正なものであるかどうかを自己責任の上ご確認ください。

インストールするプラグインを選択します。

注： 「プラグインが見つからないか、またはサーバを使用できません」というメッセージがプラグインダウンロード領域に表示される場合は、次のどちらかまたは両方の条件にあてはまる可能性があります。Novell ダウンロードサイトに更新されたプラグインがないか、またはインストールプログラムから novell.com への接続が成功しなかった。インターネット接続を確認してください。

- 6 ローカルディレクトリからプラグインをインストールするには、プラグインファイル (.npm) を `extracted_install_directory\products\imanager\packages` ディレクトリにコピーします。

プラグインファイル (.npm) を格納しているディレクトリパスを入力します。デフォルトは、`/extracted_location/imanager/installs/plug-ins` です。有効なマウントポイントを入力してください。

注： .npm ファイルの検索に使用されるディレクトリレベルは 1 レベルだけです。インストールプログラムでは、サブディレクトリに格納されたプラグインはインストールされません。

- 7 [はい] または [いいえ] をクリックして、既存の Apache なしで iManager を設定するかどうかを設定します。

既存の Apache がインストールされている設定の場合、Novell iManager 2.6 の Linux へのインストール時に、Apache HTTP サーバがインストールされないことに注意してください。ただし、iManager の以前のバージョンからアップグレードする場合は、インストールに含まれる HTTP サーバを使用できます。

- ◆ [はい] を選択すると、Apache がサーバにインストールされている場合、iManager 2.6 は事前にインストールされた Apache と連携するように設定されます。Apache HTTP サーバの httpd.conf ファイルが格納されたディレクトリパスを入力します。このサーバでは、iManager が SSL 通信を設定する前に SSL を設定しておく必要があります。Apache サーバで SSL 通信を設定していない場合は、インストールを続行して Apache Tomcat のみを使用して iManager を実行するように設定するか、またはインストールを停止します。
- ◆ [いいえ] を選択した場合、iManager は Apache Tomcat のみを使用して実行するように設定されます。

8 Tomcat を実行するポートを入力します。

デフォルトは HTTP ポートに対して 8080、HTTPS ポートに対して 8443 です。

注： Apache HTTP サーバを使用しないように設定している場合、Tomcat のポートから iManager 2.6 を実行する必要があります。たとえば、https://server_IP:8443/nps/iManager.html と指定します。

9 さまざまな管理タスクを実行する、許可されたユーザの名前とコンテキストを入力します。

許可されたユーザ以外には、これらのタスクは表示されません。既定のオプションの [なし] を使用している場合、すべてのユーザがこれらのタスクにアクセスできます。iManager 2.5 からのアップグレードでは、このバージョンで使用されていた許可されたユーザのリストが使用されます。

インストール後に、許可されたユーザを iManager から追加するには、[設定] > [iManager サーバ] > [iManager の設定] > [セキュリティ] タブに移動します。詳細については、『iManager 2.6 管理ガイド』の「許可されたユーザ」を参照してください。

10 [インストール前の概要] ページを確認して、[インストール] をクリックします。

- ◆ [新規] は、iManager の以前のバージョンでインストールされていないプラグインです。これらのプラグインは、`extracted_install_directory\products\imanager\packages` ディレクトリに格納されます。
- ◆ [既存] は、iManager の以前のバージョンによりすでにインストールされていて、Novell ダウンロードサイトに使用可能な新しいバージョンが存在しないプラグインです。
- ◆ [更新済み] は、iManager の以前のバージョンによりすでにインストールされていて、使用可能な新しいバージョンのプラグインが Novell ダウンロードサイトに存在するプラグインです。
- ◆ [New Download (新しいダウンロード)] は、iManager の以前のバージョンでインストールされておらず、`extracted_install_directory\products\imanager\packages` ディレクトリに格納されていないプラグインです。

インストール時には、iManager ファイルのインストール、プラグインのダウンロード、および設定の変更が行われます。インストールには、数分かかる場合があります。

インストールの終了後は、Web サーバが初期化されるまで数秒待つてから iManager にアクセスしてください。29 ページの第 2 章「iManage へのアクセス」を参照してください。

以前のバージョンの iManager がサーバにインストールされており、RBS またはカスタムコンテンツが作成されている場合は、モジュールを更新する必要があります。31 ページの第 3 章「役割ベースサービスの更新」を参照してください。

Solaris 上での iManager サーバ

インストールの準備をするために、インストール条件のチェックリストを確認します。

インストール条件

Solaris* に iManager をインストールする場合は、12 ページの「インストール条件」に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件も適用されます。

- SunSolve* Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) からダウンロードした最新のパッチがインストールされた Sun* Solaris 9 または 10 (SPARC* プロセッサのみ)
- 400 MB のディスク領域
- パッチ 112438 のインストール
- 以前のバージョンの iManager

iManager 1.5.x がサーバにインストールされている場合は、iManager 2.6 をインストールする前に、このバージョンをアンインストールする必要があります。iManager 2.5 がインストールされている場合、このバージョンをアンインストールする必要はありません。iManager 2.6 では上書きインストールが可能です。アンインストール時は、カスタムコンテンツは削除されません。

- ポートの設定

ポートは競合する可能性があります。Apache、Tomcat、および JVM は、iManager インストールプログラムを使用してインストールされます。iManager インストールプログラムは、ポート 80 およびポート 443 が使用されているかどうかを確認します。(たとえば、eDirectory はデフォルトで HTTP スタックとしてポート 80 を使用します。) これらのポートが使用中である場合は、自動的に代替ポートが提示されます。このポートは変更することができます。

手順

- 1 [Novell ダウンロードサイト \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) で、iManager 製品を検索し、iManager 2.6 を選択します。次に、iMan_26_sol.tgz をダウンロードします。
- 2 次のコマンドを使って、iMan_26_sol.tgz を展開します。

```
gzip -dc iMan_26_sol.tgz | tar xvf -
```
- 3 シェルを開き、*your_install_directory*/installs/unix ディレクトリに移動します。
このパスは、iManager のファイルをコピーまたは解凍したディレクトリに対する相対パスです。
- 4 次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallSolaris.bin
```
- 5 iManager 2.6 のスプラッシュ画面が表示されたら言語を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [イントロダクション] ページで、[OK] をクリックします。
- 7 使用許諾契約に同意して、[OK] をクリックします。
- 8 [検出の概要] ページを確認して、[次へ] をクリックします。

[検出の概要] ページでは、インストールされているものとインストールするものが表示されます。(実際にインストールされているものが検出されなかった場合は、インストールされている内容をインストーラに指示することもできます。)

- 9** [ダウンロードしてインストールするプラグインを選択] ページで、Novell ダウンロードサイトからインストールするプラグインを選択し、[次へ] をクリックします。

デフォルトでは、ベースインストールが選択されています。チェックボックスをオンまたはオフにして、このリストへの追加または削除を行ってください。

- 10** 必要な NPM を参照して選択し、[次へ] をクリックします。

[インストールするプラグインをディスクから選択] ページでは、インストールの実行時に、以前にダウンロードしたプラグインまたはカスタムプラグインをインストールできます。

- 11** [許可されたユーザの情報] ページで、許可されたユーザの完全なコンテキストと、このユーザが管理するツリーを入力して、[次へ] をクリックします。

- 12** [インストール前の概要] ページに記載されたインストール中に実行される内容の概要を確認し、[インストール] をクリックします。

インストール時には、iManager ファイルのインストール、プラグインのダウンロード、および設定の変更が行われます。インストールには、数分かかる場合があります。

インストールの終了後は、Web サーバが初期化されるまで数秒待つてから iManager にアクセスする必要があります。インストールの終了後に iManager にアクセスするには、[29 ページの第 2 章「iManage へのアクセス」](#)を参照してください。

以前のバージョンの iManager がインストールされており、RBS またはカスタムコンテンツが作成されている場合は、モジュールを更新する必要があります。[31 ページの第 3 章「役割ベースサービスの更新」](#)を参照してください。

Windows 上での iManager サーバ

iManager をインストールするために管理者としてログインします。インストールの準備をするために、インストール条件のチェックリストを確認します。

インストール条件

Windows に iManager をインストールする場合は、[12 ページの「インストール条件」](#)に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件も適用されます。

- Windows 2000 Advanced Server SP4、Windows 2000 Server SP4、Windows Server 2003 Standard SP1、および Windows Server 2003 Enterprise SP1
- Pentium III 600 MHz 以上のプロセッサ
- ローカルインストール用として 500 MB の空きディスク領域
- 512 MB の RAM (1 GB を推奨)

□ Web サービス

Windows サーバでは、Apache と Tomcat、または Windows インターネットインフォメーションサービス (IIS) と Tomcat を使用できます。インストール済みの Web サービスは、iManager インストールプログラムによって検出されます。Windows サーバで IIS を使用している場合に Apache と Tomcat を使用するには、まず IIS を削除し、その後 iManager インストールプログラムを使用して Apache と Tomcat をインストールする必要があります。iManager インストールプログラムでは、IIS は SSL を使用するように設定されません。

□ 以前のバージョンの iManager

以前のバージョンをアンインストールする必要はありません。iManager 2.6 ではバージョン 1.5.x を検出した場合、処理を続行する前にこれをアンインストールします。iManager ではバージョン 2.0.x を検出した場合、ファイルを上書きします。アンインストール時は、カスタムコンテンツは削除されません。

手順

- 1 **Novell ダウンロードサイト (<http://download.novell.com>)** で、iManager 製品を検索し、iManager 2.6 を選択します。次に、それをサーバ上のディレクトリにダウンロードします。
- 2 iManager フォルダにファイルを展開します。
- 3 (*your_chosen_directory*¥iManager¥installs¥win に格納されている) iManagerInstall.exe を探して実行します。
ヒント: インストールプログラムを起動した直後に <Ctrl> キーを押すと、インストールプログラムのデバッグ出力を表示できます。コンソールウィンドウが表示されるまで、<Ctrl> キーを押し続けてください。デバッグの詳細については、次を参照してください。
- 4 iManager のスプラッシュ画面が表示されたら言語を選択し、[OK] をクリックします。
- 5 [イントロダクション] ページで、[OK] をクリックします。
- 6 使用許諾契約に同意して、[OK] をクリックします。
- 7 [検出の概要] ページを確認して、[OK] をクリックします。
[検出の概要] ページでは、インストールされているものとインストールするものが表示されます。(実際にインストールされているものが検出されなかった場合は、インストールされている内容をインストーラに指示することもできます。)
- 8 [ダウンロードしてインストールするプラグインを選択] ページで、Novell ダウンロードサイトからインストールするプラグインを選択し、[次へ] をクリックします。
デフォルトでは、ベースインストールが選択されています。チェックボックスをオンまたはオフにして、このリストへの追加または削除を行ってください。
- 9 必要な NPM を参照して選択し、[次へ] をクリックします。
[インストールするプラグインをディスクから選択] ページでは、インストールの実行時に、以前にダウンロードしたプラグインまたはカスタムプラグインをインストールできます。
- 10 [許可されたユーザの情報] ページで、許可されたユーザの完全なコンテキストと、このユーザが管理するツリーを入力して、[次へ] をクリックします。

11 [インストール前の概要] ページを確認して、[インストール] をクリックします。

インストール時には、iManager ファイルのインストール、プラグインのダウンロード、および設定の変更が行われます。インストールには、数分かかる場合があります。

インストールが終了すると、ブラウザウィンドウに [はじめに] ページが表示されます。iManager にアクセスするには、初期化されるまで待つ必要があります。

iManager にアクセスするには、[はじめに] ページの最初のリンクをクリックしてログインします。

詳細については、**29 ページの第 2 章「iManage へのアクセス」**を参照してください。

重要： IIS を使用してサーバ上で複数の Web サイトを実行している場合、詳細については「**ページが見つかりません**」を参照してください。

以前のバージョンの iManager がインストールされており、RBS またはカスタムコンテンツが作成されている場合は、モジュールを更新する必要があります。**31 ページの第 3 章「役割ベースサービスの更新」**を参照してください。

Windows クライアントでの Mobile iManager

インストールの準備をするために、インストール条件のチェックリストを確認します。

インストール条件

- Windows 2000 Professional SP4 および Windows XP Professional SP2
- お使いの LAN 用にプロキシサーバを使用するように Internet Explorer を構成している場合は、[ツール] > [インターネットオプション] > [接続] > [LAN の設定] の順に選択し、[ローカルアドレスにはプロキシサーバを使用しない] オプションを選択する必要があります。

重要： Mobile iManager では、NMAS クライアントがワークステーションにインストールされている必要があります。バージョン 4.91 より前の Novell Client™ を実行している場合は、Mobile iManager を起動する前に、NMAS クライアントがインストールされていることを確認しておく必要があります。

手順

- 1** Novell ダウンロードサイト (<http://download.novell.com>) で、iManager 製品を検索し、iManager 2.6 を選択します。次に、iMan_26_Mobile_iManager_win.zip をダウンロードします。
- 2** 任意の ZIP プログラムを使って、パス名が 15 文字以下になるシステムルートに近いフォルダに、iMan_26_Mobile_iManager_win.zip ファイルを展開します。
- 3** ファイルブラウザで、iManager¥bin フォルダに移動します。
- 4** iManager.bat ファイルをダブルクリックし、スクリプトを実行します。
- 5** iManager ログイン画面が表示されたら、ユーザ名、パスワード、およびツリーを入力します。
iManager にアクセスするには、**29 ページの第 2 章「iManage へのアクセス」**を参照してください。

以前のバージョンの iManager がインストールされており、RBS またはカスタムコンテンツが作成されている場合は、モジュールを更新する必要があります。**31 ページの第 3 章「役割ベースサービスの更新」**を参照してください。

iManager のサイレントインストール

サイレント（非インタラクティブ）インストールでは、ユーザインタフェースやユーザへの質問は表示されません。代わりに、InstallAnywhere では、この目的のためにプロパティからの情報を使用します。

注： NetWare ではサイレントインストールをサポートしていません。

標準的なサイレントインストール

HP-UX、Solaris、Linux、または Windows で標準的なサイレントインストールを実行するには、すべてのデフォルト値をそのまま使用します。

- 1 コンソールウィンドウを開き、ダウンロードした iManager ファイルがあるディレクトリに移動します。
- 2 HP-UX、Solaris、および Linux の場合、コマンドラインで次のように入力します。

```
./iManagerInstall<platform>.bin -i silent
```

Windows の場合、次のように入力します。

```
iManagerInstall.exe -i silent
```

カスタマイズされたサイレントインストール

インストールされるモジュールを制御するために、カスタマイズされたサイレントインストールを実行するには、次の手順に従います。

- 1 インストーラの実行ファイルが格納されているディレクトリ内で、`installer.properties` ファイルを作成します。
- 2 `installer.properties` ファイルを使ってサイレントインストールを実行するには、次のように入力します。

```
./iManagerInstallplatform.bin -i silent -f pathto_properties_file
```

- 3 `installer.properties` で、次の値を設定して保存します。
 - ◆ `$PLUGIN_INSTALL MODE$`（プラグインをディスク、ネットワーク、またはディスクとネットワークの両方からインストールするのか、またはどこからもインストールしないのかを制御するプロパティ）
 - ◆ プラグインがディスクからインストールされる場合、このプロパティを `DISK` に設定します。
これはデフォルト値です。
 - ◆ プラグインがネットワークからインストールされる場合、このプロパティを `NET` に設定します。
 - ◆ プラグインがディスクとネットワークの両方からインストールされる場合、このプロパティを `BOTH` に設定します。
 - ◆ プラグインがインストールされない場合、このプロパティを `SKIP` に設定します。

- ◆ `$PLUGIN_DIRS` (ディスク上にあるプラグインの場所を示す代替パスを定義するプロパティ)

デフォルトパスは次のとおりです。 `installer_root_directory/iManager/installs/platform path/plugin`

プラグインディレクトリ内にあるすべてのモジュールがインストールされます。ただし、サブディレクトリ内にあるものはインストールされません。

- ◆ `$PLUGIN_INSTALL_URLS` (ネットワーク上にあるプラグインの場所を示す代替 URL を定義するプロパティ。たとえば、特定の iManager の顧客によって定義されたサブネットが含まれているローカルエリアネットワークサーバ)

デフォルトのパスは、Novell ダウンロード Web サイト (http://download.novell.com/index.jsp?search=Search&keywords=&families=2611&platforms=&date_range=&languages=&x=29&y=8) です。

この URL は変更できますが、URL の参照先となる Web サーバファイル上に **XML デスクリプタファイル**が必要です。

- 4 ダウンロードする特定のモジュールを指定するには、次の例のように、NPM の META-INF/ フォルダに格納された MANIFEST.MF ファイルから、モジュール ID とバージョンを指定します。

```
$PLUGIN_MODULE_ID_1$=eDirectoryBackupAndRestore
```

```
$PLUGIN_VERSION_1$=2.6.20050517
```

```
$PLUGIN_MODULE_ID_2$=ldap
```

```
$PLUGIN_VERSION_2$=2.6.20050517
```

など (モジュール数に応じて必要なだけ指定します)

モジュールが定義されていない場合は、ダウンロード Web サイト上にある `iman_mod_desc.xml` ファイル内で「**typical**」としてタグが記述された、最も頻繁にインストールされるモジュールがインストールされます。

モジュールにバージョンが定義されていない場合は、NPM 名に一致するすべてのモジュールがインストールされます。

2

iManage へのアクセス

Novell® iManager は、Web ブラウザを使用してアクセスされます。このセクションでは、次の手順について説明します。

- ◆ 29 ページの「サポートされている Web ブラウザの使用」
- ◆ 29 ページの「iManage へのアクセス (サーバベース)」
- ◆ 30 ページの「Linux クライアントでの Mobile iManager の起動」
- ◆ 30 ページの「Linux Desktop での Mobile iManager Desktop Launcher」
- ◆ 30 ページの「Windows クライアントでの Mobile iManager の起動」

サポートされている Web ブラウザの使用

iManager にアクセスしてすべての iManager 機能を利用するには、次のいずれかの Web ブラウザを実行しているコンピュータを使用する必要があります。

- ◆ Microsoft* Internet Explorer* 6 SP1
- ◆ Mozilla 1.7.6
- ◆ Mozilla Firefox* 1.0.7

その他の Web ブラウザを使用しても iManager にアクセスできますが、すべての機能を保証またはサポートするものではありません。

注：パスベースのマルチホーミングアクセラレータと [Remove Sub Path from URL (URL からサブパスを削除)] オプションを有効にして、iChain® サーバを通じて iManager 2.6 にアクセスすることはサポートされていません。

iManage へのアクセス (サーバベース)

- 1 サポートする Web ブラウザの [アドレス (URL)] フィールドに次のアドレスを入力します。

`http://server_IP_address/nps/iManager.html`

例：

`http://127.0.0.1/nps/iManager.html`

HTTPS の保護されたページにリダイレクトされる場合があります。

重要： URL では大文字と小文字が区別されます。

iManager が標準のポート上で実行されていない場合は、iManager が実行されているポートを指定します。たとえば、Apache なしで Linux を使用している場合、URL は `http://server_IP_port/nps/imanager.html` または `https://127.0.0.1:8443/nps/iManager.html` になります。

- 2 自分のユーザ名、パスワード、および eDirectory™ ツリー名を使用してログインします。

ツリー名は eDirectory サーバの IP アドレスに置き換えることができます。

Novell iManager の機能をすべて使用するには、管理者と同等の権利を持つユーザとしてツリーにログインする必要があります。

Linux クライアントでの Mobile iManager の起動

- 1 展開した iMan_26_Mobile_iManager_linux.tar ディレクトリの bin ディレクトリから imanager.sh を最初に実行します。
- 2 自分のユーザ名、パスワード、および eDirectory ツリー名を使用してログインします。

Linux Desktop での Mobile iManager Desktop Launcher

Linux Desktop で Mobile iManager 用の Desktop Launcher を作成するには、iManager.sh スクリプトを編集する必要があります。

たとえば、Mobile iManager .bz2 ファイルを /opt/novell ディレクトリに展開した場合は、iManager.sh スクリプトを /opt/novell/manager/bin ディレクトリ内で探して、スクリプトの先頭、#!/bin/sh 行の真下に次の行を追加します。

```
cd /opt/novell/manager/bin
```

Windows クライアントでの Mobile iManager の起動

- 1 展開した iMan_26_Mobile_iManager_win ディレクトリの bin ディレクトリから imanager.bat を実行します。
- 2 自分のユーザ名、パスワード、および eDirectory ツリー名を使用してログインします。

3

役割ベースサービスの更新

サーバに Novell® iManager がインストールされている場合、iManager 2.0.x か 1.5.x のどちらが実行されているかに応じて、iManager 2.6 にアップグレードするか、移行する必要があります。このセクションでは、次の手順について説明します。

- 31 ページの「役割ベースサービスの移行」
- 32 ページの「iManager 2.x からの更新」

役割ベースサービスの移行

iManager 1.5.x からの移動を説明する場合、「更新」よりも「移行」という言葉を使った方が適切と言えます。移行する必要があるのは、役割ベースサービス (RBS) オブジェクトとタスクです。

サーバに iManager 2.6 をインストールしたか、Mobile iManager をインストールした後 (9 ページの第 1 章「iManager のインストール」を参照)、eDirectory™ ツリー内の RBS オブジェクトは iManager 2.6 形式に移行する必要があります。この作業は、iManager 2.6 で新しい RBS の設定タスクを使って行います。

移行タスクにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 1.5.x コレクションを移行できるように、2.6 コレクションを作成します。
- 2 iManager の [設定] ビューで [役割ベースのサービス] > [RBS の設定] の順にクリックします。
[iManager 2.x コレクション] タブページにコレクションが表示されない場合は、[新規] > [コレクションとセットアップ] の順にクリックして、表示される手順に従います。
- 3 [iManager 1.x コレクション] タブをクリックします。
[iManager 1.x コレクション] タブページに、2.6 に移行できるすべての 1.5.x コレクションが表示されます。
- 4 移行するコレクションを選択し、テーブルの上部にある [移行] をクリックします。
- 5 移行先にする 2.x コレクションを選択して、[スタート] をクリックします。
移行の完了後、1.x コレクションは eDirectory ツリー内にそのまま残されます。このコレクションをこれ以上使用しない場合は、iManager 2.6 内から削除することができます。
- 6 (オプション) 1.x コレクションを削除するには、[iManager 1.x コレクション] タブをクリックし、削除するコレクションを選択します。次に、テーブルの上部にある [削除] をクリックします。

RBS Migration Wizard では、iManager 1.x で作成されたカスタムタスクはバージョン 2.6 タスクに移行されません。1.5.x カスタムタスクを iManager 2.6 に移行するためのオプションは 2 つあります。

- ◆ カスタムタスクは、iManager 2.6 で Plug-in Studio を使用してもう一度作成できます。[設定] ビューで、[役割ベースのサービス] > [Plug-in Studio] > [新規] の順にクリックします。
- ◆ Custom Task Migration Utility を使って、1.5.x タスクを 2.6 タスクに移行できます。

Custom Task Migration Utility は、[Novell Technical Services Web サイト \(http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/2969968.htm\)](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/2969968.htm) からダウンロードできます。ダウンロードに含まれている Readme ファイルには使用方法が記載されています。カスタムタスクまたはコンテンツがない場合は、Custom Task Migration Utility を実行する必要はありません。

iManager 2.x からの更新

RBS コレクションがすでに含まれている eDirectory ツリーに iManager 2.6 を使用してログインする場合、最初のログイン時は役割とタスクの一部しか表示されない場合があります。これは想定内の動作です。これは、iManager 2.6 ですべてのプラグインを利用できるようにするには、プラグインの一部を更新する必要があります。RBS の設定タスクは、日付が古い RBS モジュールを一覧表示します。iManager 2.0.2、2.5、および 2.6 で、インストールされているモジュールをすべて表示したり、使用したりできるように、RBS モジュールを最新バージョンに更新することをお勧めします。

複数の役割に同じ名前が付けられている場合があることにご注意ください。プラグインの開発者によっては、iManager 2.5 のプラグインを更新したときに、タスク ID やモジュール名は変更しても、表示名は変更しないことがあります。このため、実際は異なるバージョンからの別々のインスタンスであっても、役割が重複しているように見えます。

注： iManager のインストールを 1 つ 1 つ見ると、ローカルにインストールされたプラグインの数が異なるため、[役割ベースのサービス] > [RBS の設定] ページから指定したコレクションのモジュールレポートに差異が見られる場合があります。iManager インストール間で数を一致させるために、ツリー内の各 iManager インスタンスに、プラグインの同じサブセットがインストールされていることを確認します。

古い RBS オブジェクトがあるかどうかを確認するには、次の手順に従います。

- 1** [設定] ビューを選択し、[役割ベースのサービス] > [RBS の設定] の順にクリックします。
[iManager 2.x コレクション] タブページのテーブルに、日付が古いモジュールがすべて表示されます。
- 2** これらを更新するには、更新するコレクションの [日付が古い] 列の数字を選択します。
古いモジュールの一覧が表示されます。
- 3** 更新するモジュールを選択して、テーブルの上部にある [更新] をクリックします。

4

Novell プラグインモジュールのインストール、使用、アンインストール

iManager で使用されるモジュールは 2 種類あります。それは Novell® プラグインモジュール (NPM) と RBS モジュールです。

- ◆ Novell プラグインモジュール

NPM は、iManager のプラグインのファイルが含まれるアーカイブです。[モジュールのインストール] タスクを使って NPM をインストールすると、iManager の機能を追加するプラグインがインストールされます。

- ◆ RBS モジュール

RBS モジュールは、RBS タスクオブジェクトと RBS ブックオブジェクトが格納される eDirectory™ 内のオブジェクトです。eDirectory ツリー内に役割ベースサービスが設定されている場合は、プラグインに関連付けられた新しいタスクが利用可能になるように、NPM の後で RBS モジュールをインストールする必要があります。

iManager を使用して作業する場合、両方の種類のモジュールが単に「モジュール」と呼ばれることもあります。このセクションでは、Novell プラグインモジュールについて説明します。

iManager 2.6 にはベース製品が含まれていますがプラグインモジュールは付属していません。プラグインモジュールは別にダウンロードする必要があります。iManager 2.6 のベース製品と統合されている base.npm モジュールで提供される機能は、次のとおりです。

- ◆ ディレクトリ管理
- ◆ パーティションとレプリカ
- ◆ ヘルプデスク
- ◆ スキーマ
- ◆ 権利
- ◆ ユーザ
- ◆ グループ

NPM のバージョンは、実行される iManager のバージョンと互換性がなければなりません。特定の NPM の iManager バージョン要件に関する情報については、各製品のマニュアルを参照してください。

プラグインおよびサポートに関連するマニュアルのリストは、『iManager 2.6 管理ガイド』の付録 A 「Novell プラグインモジュール」に記載されています。

Novell プラグインモジュールのダウンロードとインストール

iManager 2.6 には iManager 内でプラグインをダウンロードおよびインストールする新機能が用意されています。既存のプラグインに対するアップデートまたはインストール時に使用可能なプラグインがあるかどうかについて、iManager 2.6 により [download.novell.com \(http://download.novell.com/index.jsp?product_id=&search=Search&build_type=SDBuildBean&families=2611&date_range=&keywords=&x=26&y=5\)](http://download.novell.com/index.jsp?product_id=&search=Search&build_type=SDBuildBean&families=2611&date_range=&keywords=&x=26&y=5) の検索が行われます。

注： デフォルトでは、プラグインモジュールは iManager サーバ間で複製されません。必要なプラグインモジュールは、各 iManager サーバ上にインストールすることをお勧めします。

重要： 許可されたユーザが iManager の [設定] ページで [モジュールのインストール] 役割を表示できない場合は、『iManager 2.6 管理ガイド』の [設定ページにプラグインモジュールのインストール役割が記述されていない問題に関するトピックの手順に従って](#)、configiman.properties ファイルを変更する必要があります。

インストール後のダウンロードでは、ダウンロードが完了したことを示すダイアログは表示されません。

Novell プラグインモジュールのインストール

- 1 iManager にログインします。
- 2 [設定] ビューで、[プラグインのインストール] > [利用できる Novell プラグインモジュール] の順にクリックします。
- 3 NPM をダウンロードしたか、使用する NPM がローカルに存在する場合は、[追加] をクリックして、*plug-in.npm* ファイルを参照します。
- 4 [OK] をクリックします。[利用できる Novell プラグインモジュール] ページに戻ります。
- 5 *plug-in.npm* ファイルを選択し、[インストール] をクリックします。

ファイルの場所は、プラグインがローカルのものか、novell.com からのものかを表します。Novell ダウンロードサイトからプラグインをインストールすると、接続速度やインストールするプラグインの数によっては、数分かかる場合があります。

- 6 Tomcat を再起動します。

プラットフォーム	再起動コマンド
NetWare® 6.5 以降	「TC4STOP」と入力します。1分以上待ってから「TOMCAT4」と入力して、サービスを再起動します。
Windows	Tomcat サービスを停止して起動します。
Solaris	「/etc/init.d/imgr stop」と入力した後、 「/etc/init.d/imgr start」と入力します。
HP*-UX	「/opt/hpws/tomcat/bin/shutdown.sh」と入力した後、 「su www /opt/hpws/tomcat/bin/startup.sh」と入力します。
Linux	「/etc/init.d/novell-tomcat4 stop」と入力した後、 「/etc/init.d/novell-tomcat4 start」と入力します。
Mobile iManager	Mobile iManager をシャットダウンし、再起動します。

Tomcat を完全に初期化するために数分かかる場合があります。5分以上経過した後、iManager にログインします。

- 7 [役割およびタスク] ページに新しい役割が表示されることを確認します。
新しい役割にメンバーを追加するには、メンバー関連付け変更タスクを使用します。

RBS が設定されている場合

重要： 既存のプラグインを再インストールするには、[モジュール設定] > [RBS モジュールの削除] タスクを使用して、そのプラグインの rbsModule オブジェクトを eDirectory から削除しておく必要があります。

RBS が設定されている場合は、次の操作を実行します。

- 1 iManager にログインして、[設定] ボタンをクリックします。
- 2 [役割ベースのサービス] > [RBS の設定] の順に選択します。
[iManager 2.x コレクション] タブページのテーブルに、日付が古いモジュールがすべて表示されます。
- 3 これらを更新するには、更新するコレクションの [日付が古い] 列の数字を選択します。
古いモジュールの一覧が表示されます。
- 4 更新するモジュールを選択して、テーブルの上部にある [更新] をクリックします。

NPM のアンインストール

- 1 iManager の [設定] ビューをクリックします。
- 2 [プラグインのインストール] をクリックし、[インストールされている Novell プラグインモジュール] をクリックします。
- 3 削除するプラグインを選択します。
- 4 [アンインストール] をクリックします。
- 5 Tomcat を再起動します。(前の **コマンド表** を参照してください。)

TID #10096957 (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10096957.htm>) の手順に従って、手動で Novell プラグインモジュールを削除することもできます

5

iManager 2.6 のアンインストール

このセクションでは、次のプラットフォームにインストールされている iManager をアンインストールする方法について説明します。

- ◆ HP-UX
- ◆ Linux
- ◆ NetWare®
- ◆ Solaris
- ◆ Windows

重要： 安全対策として、iManager をアンインストールする前に、残しておくすべてのカスタムコンテンツや他の特定の iManager ファイルをバックアップします。通常、カスタムコンテンツは `webapps\%nps\packages` ディレクトリに保存され、`custom.npm` と呼ばれます。

iManager または関連するサードパーティコンポーネントをアンインストールするための特別な手順はありません。

これらのコンポーネントをアンインストールすると何らかの影響が出る可能性があります。たとえば、Web サーバまたはサブレットコンテナをアンインストールすると、iManager を実行できなくなります。NetWare を除くすべてのプラットフォームの場合、アンインストール時は、最初にインストールされたファイルのみが削除されます。たとえば、Tomcat の実行中に作成されたログファイルや自動生成設定ファイルなど、アプリケーションで作成したファイルは、アンインストール時に削除されません。

同様に、インストール時に作成されたディレクトリ構造内に新しいファイルを作成したり既存のファイルを変更した場合、これらのファイルもアンインストール時に削除されません。この方法は、製品をアンインストールする際にデータが誤って削除されないようにするために採用されました。

iManager のアンインストールは、ツリー内で設定した RBS の設定には影響しません。このアンインストール手順では、ログファイルまたはカスタムコンテンツは削除されません。

HP-UX

アンインストールする場合は、ルートでアクセスする必要があります。

- 1 シェルを起動して、次のコマンドを実行します。

```
/opt/hpws/tomcat/webapps/nps/UninstallerData/  
UninstalliManager
```

Linux

アンインストールする場合は、ルートでアクセスする必要があります。

- 1 シェルを起動して、次のコマンドを実行します。

```
/var/opt/novell/iManager/nps/UninstallerData/UninstalliManager
```

NetWare 6.5

- 1 NetWare の GUI で、[Novell] > [インストール] の順にクリックします。
- 2 インストールされている製品のリストから iManager 2.6 を選択し、[削除] をクリックします。

Solaris

アンインストールする場合は、ルートでアクセスする必要があります。

- 1 シェルを起動して、次のコマンドを実行します。

```
/var/opt/novell/tomcat4/nps/UninstallerData/UninstalliManager
```
- 2 [アンインストール] をクリックします。

Windows

Windows から iManager をアンインストールするには、[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] を使用します。iManager のインストール時に、Apache、Tomcat、または NICI をインストールした場合、これらは [プログラムの追加と削除] に別々に表示されます。これらを使用を中止する場合は、[プログラムの追加と削除] を使って、各プログラムを個別に順不同でアンインストールすることができます。

重要： iManager と同じサーバ上に eDirectory がインストールされている場合は、eDirectory™ を実行するために NICI が必要になる場合があります。

iManager 2.6 を削除する場合は、ファイルシステム内の一部のファイルのみが削除されます。すべての iManager ファイルを削除するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。[はい] を選択すると、カスタムコンテンツを含むすべての iManager ファイルが削除されます。ただし、2.6 RBS オブジェクトは eDirectory ツリーから削除されず、スキーマは同じ状態のまま残ります。

Mobile iManager

Mobile iManager をアンインストールするには、ファイルを展開したディレクトリを削除します。NMASTM と NICI ファイルはサーバ上に残ります。